

平成27年度 放課後子ども教室一覧

4市21教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	委託	委託団体名
栗東市	7	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	○	栗東市地域教育協議会
		はるたっこ広場	治田小学校 コミュニティセンター治田		
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 コミュニティセンター治田東		
		治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西		
		大宝わくわくタイム	大宝小学校		
		さんさん・キッズ	大宝東小学校		
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 コミュニティセンター大宝西		
野洲市	7	野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		
		祇王子どもクラブ	コミュニティセンターぎおう		
		篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら		
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		
		中主地域子ども教室(中里学区)	コミュニティセンターなかさと		
		中主地域子ども教室(兵主学区)	コミュニティセンターひょうず		
湖南市	3	石部中 中3生夜の学習会	青少年の家		
		甲西北中放課後学習教室	甲西北中学校		
		日枝中学校放課後事業	市民学習交流センター 日枝中学校		
米原市	4	放課後キッズin 310	米原市山東生涯学習センター	○	NPO法人 カモンスポーツクラブ
		放課後キッズinジョイ	伊吹薬草の里文化センター 伊吹山文化資料館 伊吹山麓青少年総合体育館	○	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団
		放課後キッズinおうみ	近江地域内の里山・農園・公民館	○	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会
		放課後キッズinまいはら	河南小学校、旧息郷小学校 すば一く米原	○	NPO法人 MOSスポーツクラブ
計	21				

■ 栗東市における放課後子ども教室の取組

■めざす姿

地域の教育力を向上させ、地域で子どもを育てる環境の形成および、子どもたちに様々な体験活動を通じて、地域とのつながりを深め、健全な青少年の育成をめざす。

■本年度の活動

7小学校区にて放課後の見守りや体験活動、軽スポーツ、学習（宿題）を行う。その他にも七夕やハロウィンといった季節に応じたイベントや、お誕生会など子ども達が楽しんで参加できるイベントを企画した。

■本年度の成果

週に1回程度ではあるが、放課後の安全な交流の場として、多くの体験活動を実施できた。

■今後の課題

スタッフの確保が大きな課題となっている。9小学校区のうち、2小学区がスタッフ不足のため開催できていない。子ども相手になると体力的にも負担を感じられるケースも多く、若い方は仕事を持っておられる場合が多いので、地域でスタッフの呼びかけをしてもなかなか集まらない。開催している学区でも、数十人の児童が軽スポーツをする際に、数名しかスタッフがつけないことがあり、スタッフ不足が問題となっている。

■その他

地域のボランティアの方がスタッフとして活動を支えてくださっているため、現状では放課後の見守り活動や、地域の方との交流推進ができていたので良いと感じている。



【みんなで宿題】



【活動前の注意事項説明】

■ みんなで楽しく仲良く活動！「葉山東ふれあい子ども広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	葉山東ふれあい子ども広場
年間開催日数	27日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	42人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、将棋などを行う。

■ 特徴的な活動内容

申込みの段階で、「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」に分け、1年を通してその活動を行う。長期休暇前にお楽しみ会を行い、3グループ全員が集まって交流できる機会も作っている。

■ 実施に当たっての工夫

3グループに分かれているが、お楽しみ会を実施することにより、参加者全員の交流を図る機会も作っている。コミュニティセンター事業と連携して、出来るだけ多くの活動を実施できるように工夫している。



【活動の前に宿題をしているところ】



【軽スポーツの活動の最中】

■ 事業の成果

コミュニティセンターの関わりが深いので、地域全体で子どもを見守ろうという取組になってきている。今後も協力者を増やしながら活動を続けていきたい。軽スポーツ、クラフト、将棋と希望を分けて参加者を募っているため、子ども達は自分の好みに応じた活動ができ、とても楽しそうにしている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が難しく、特に軽スポーツのスタッフが不足している。昨年度から未就学児を連れた保護者のスタッフに参加していただいているが、未就学児も参加している子ども達と楽しく遊んでおり、小学校入学までに交流が図れるいい機会ではないかと思う。スタッフの高齢化が進んでいるので、このような保護者スタッフが増えてくれればと思う。

■ 治田の子どもは元気っ子！いつも元気に「はるたっこ広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	はるたっこ広場
年間開催日数	27日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	57人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、絵本の読み聞かせ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

学年毎に下校時間が違うため、受付から活動開始まで時間があり、その時間に宿題や市内のサークルに協力いただいて絵本の読み聞かせを行っている。小学校の体育館をお借りし、子ども達が自由に遊びまわり、スタッフが見守りや活動の補助をしている。

■ 実施に当たっての工夫

基本は体育館を使った自由遊びで、スタッフと一緒に遊んだり、見守りをしている。体育館に和机を用意し、運動が苦手な子は折り紙などをして楽しんでいる。

別途参加費を徴収してお楽しみ会を開催し、コミュニティセンターの調理室をお借りして、お菓子作りを行っている。



【みんなが揃うまで宿題】



【体育館での自由遊び】

■ 事業の成果

絵本の読み聞かせサークルに読み聞かせの協力いただいているので、スタッフに少し余裕が出来たと思う。活動の途中から参加する子も、はじめから遊んでいた子の輪の中にすんなりと入れ、学年に関係なくみんな楽しそうに遊んでいる。

■ 事業実施上の課題

今年度は参加者に定員を設けたものの、参加希望者が定員を上回り、全員を受け入れることとなった。参加者に対してスタッフの人数が少なく、スタッフの負担が大きくなっている。スタッフも高齢化しており、若い世代のスタッフ確保が求められる。今年度は参加者の保護者がスタッフとして参加してくださったので、今後も保護者スタッフを増やしていきたい。

■ 色々なことに楽しくチャレンジ！みんなで「チャレンジはるひがっこ」

■ 栗東市	
■ 活動名	チャレンジはるひがっこ
年間開催日数	30日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	37人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

七夕飾りやハロウィン、お餅つきなど季節のイベントを積極的に活動に取り入れている。お誕生会も2ヶ月に1回行い、スタッフの手作りの品をプレゼントしている。

■ 実施に当たっての工夫

スタッフの技能を生かした内容を取り入れ、様々な体験が出来るようにしている。活動内容に季節のイベントも取り入れ、子ども達が季節を感じられるような活動にされている。

夏休み期間中にお楽しみ会を行ない、コミュニティセンターを利用して普段の活動ではできない事を実施している。今年度は流しそうめんを行い、子ども達はとても喜んでいた。



【お楽しみ会での流しそうめん】



【ハロウィンでフェイスペイント】

■ 事業の成果

軽スポーツやクラフト作成だけでなく、英語遊びも行う事によって、学習面での活動も行っている。低学年が多いので、英語を勉強するというよりも、英語に慣れ親しむ活動になっている。また、子ども達を縦割りグループに分け、上級生が下級生の面倒を見ることによって自立心や協調性も芽生えてきている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が課題となっている。今年度は昨年度に比べて5人減少し、スタッフの人数が大きく減っている。スタッフが増えれば、活動内容にも幅が出ると思うので、今後も地域の方や、保護者の方に声をかけてスタッフの確保に努めたい。

■ 心豊かにのびのび過ごす！色々な経験ができる「治西のびのび広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	治西のびのび広場
年間開催日数	31日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	56人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、体験学習などを行う。

■ 特徴的な活動内容

ニュースポーツや学校のプールでの水泳、地域文化祭で展示するための創作活動、人権学習、平和学習、環境学習などを行っている。学校が密接に関わっており、学校の先生を中心に、他の学区ではなかなか出来ない学習をメインにした活動も行っている。また、他団体が主催しているスキー教室や琵琶湖でのボート体験も行っている。

■ 実施に当たっての工夫

自分達で育てたジャガイモを平和学習の際に収穫し、戦時の食糧難のお話を聞いたあと、当時の食生活を体験し、戦争の悲惨さや平和の大事さを学習した。

帰宅時には、同じ自治会の子どもがスタッフと一緒に集団下校するようにしており、保護者のお迎えが無くても参加できるようになっている。



【地域のイベントで楽器演奏】



【演奏が無事終了し、ほっとしている様子】

■ 事業の成果

学校の畑を借りて、野菜を育てることによって環境学習を行い、その野菜を使って、戦時中の食事を再現し平和学習を行っている。地域文化祭のステージ発表にも参加し、地域とのふれあいを大切にしている。

他団体が主催するイベントにも参加しているため、子ども達は様々な体験活動を実施することが出来た。

■ 事業実施上の課題

参加希望者が年々増加しているが、学校の先生の協力のおかげで、多くの参加者を見守ることが出来ている。現在は学校の先生を中心に活動が行われているので、参加者が多くても活動が出来ているが、現在の参加者数をスタッフだけでは対応しきれない現状である。担当してくださっている先生が異動された後のことも考えて今後は活動していかないとはいけない。

■ 毎回の活動にわくわくドキドキ！みんな楽しみ「大宝わくわくタイム」

■ 栗東市	
■ 活動名	
大宝わくわくタイム	
年間開催日数	21日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	42人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

受付後に宿題をする時間（宿題タイム）を設け、その後ラジオ体操を行い活動開始している。毎回異なる活動を行っている。活動内容は多岐に渡り、軽スポーツだとペットボトルボウリング、二人三脚リレーなど、創作活動だと紙飛行機、どんぐりのアクセサリなどを作成した。最後には毎回ドッジボールを行っている。

今年度は最初の活動で避難訓練を行い、活動場所である体育館で地震が起こったときの対応をみんなで学習した。

■ 実施に当たっての工夫

毎回違う活動を企画し、子ども達が飽きずに楽しめる活動にしている。毎回、最初に宿題タイム、ラジオ体操を行い、活動の最後にはドッジボールを取り入れている。

子ども達を4グループに分け、チーム対抗競技や、ドッジボールを行うことによって、協調性や、リーダーシップの育成に取り組んでいる。

活動の中に避難訓練を入れるなどして、子ども達への安全対策にも気を配っている。



【クラフト製作の様子】



【恒例のドッジボール】

■ 事業の成果

グループを縦割りにすることによって、学年が上の子が下の子の面倒を見るようになり、全体に協調性が現れてきた。ドッジボールなどでもボールをとった子が、下の子に投げるのを譲ってあげたり、ゲームの内容を説明してあげたりと協調性、リーダーシップの育成に効果がでている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が困難。学校を通じて募集依頼を行っても、募集がほとんど無い。現在はスタッフが知り合いに声をかけ、新しいスタッフを確保しているが、この方法だと限界があるため、新しい募集方法を考えている。

■ お日様の様なはじける笑顔！みんなにここに「さんさん・キッズ」

■ 栗東市	
■ 活動名	さんさん・キッズ
年間開催日数	21日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	33人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を利用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

宿題タイムを設けて、スタッフも含めて皆で教えあいながら宿題をする。その後、ラジオ体操、自由遊びを行なう。自由遊びでは、ボール遊びやフリスビーなどの軽スポーツから、折り紙やお絵かき、クラフト作成などの創作活動を子ども達が自由に行っている。

■ 実施に当たっての工夫

活動については、宿題とラジオ体操を行った後、子ども達の自主性に任せて自由遊びにしている。学区のコミュニティセンターが学校から遠く、他の学区のように利用できない為、実施できる内容に限りがあり、主として宿題のサポート、自由遊びと見守りが活動の中心となっている。



【校長先生のお話を聞いているところ】



【小学校のグラウンドでシャボン玉】

■ 事業の成果

自由遊びにすることにより、子ども達が自分の好きなことで遊ぶ事ができ、とても楽しそうに活動している。子ども達から積極的にスタッフに声をかけ、一緒に遊んでいる姿をよく見かける。学校以外の場所でスタッフと出会うと、子ども達のほうからあいさつをするなど、地域の大人との良好な関係が築かれている。

■ 事業実施上の課題

今年度当初は、スタッフの人数が少なく開催できるか危ぶまれたが、保護者スタッフや地域の方の協力があり、開催することができた。また、学区のコミュニティセンターが学校から遠く、スタッフが少ないなどの理由から他の教室のようにコミュニティセンターを使った活動ができず学校体育館のみでの活動となっている。

■ いろいろな人、経験とふれあう！楽しみがいっぱい「大宝西ふれあい子ども広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	大宝西ふれあい子ども広場
年間開催日数	26日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	31人
開始年度	19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

受付後、宿題タイムを設けて宿題を済ませた後、自由遊び（ボール遊び、縄跳び、フリスビー、紙飛行機、オセロなど）を行う。七夕やクリスマスといった季節の行事や、平和学習なども取り入れている。毎月、月末にはお誕生会を開き、その月の誕生日の子どもを、みんなでお祝いしている。

■ 実施に当たっての工夫

1年生が学校になじむ時間が必要と考えて、活動の開始を6月からにしている。そのため、整列や話を聞く姿勢が出来ている子どもが多い印象を受けた。

子ども達が、自分の好きな遊びを好きなだけ出来るようにと、基本は自由遊びとしているが、スタッフから紙飛行機大会や、ドミノ倒しなどを提案して、希望者を募って行っている。それに加え、季節の行事やお誕生会を行うことにより、子ども達がとても満足できる内容になっている。



【活動前の宿題タイム】



【平和学習でビデオを見ているところ】

■ 事業の成果

基本は自由遊びを行っているが、グループ遊びや季節の行事などを取り入れることによって、子ども達の自主性や協調性を育てている。グループ遊びは参加したい子どもだけで行っているが、ほとんどの子どもが参加し、色々なことを競い合いながら楽しんでいる。

■ 事業実施上の課題

地域の民生委員や参加者の保護者に声をかけて、スタッフになってもらっているが、他の教室に比べるとスタッフの人数は不足していない。しかし、毎回全員が参加できるわけではないので、今後もスタッフの確保に努め、子ども達が安心して遊べる場を作るように努力していく。

野洲市における放課後子ども教室の取組

■めざす姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげること。

■本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」（運営委員会）において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	平成 27 年 6 月 5 日	14 名	(1) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 28 年 2 月 26 日	13 名	(1) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

■本年度の成果

- ・異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。
- ・地域の方々が、子ども教室の講師やボランティアとして関わってくださることで、地域での交流を深めることができた。

■今後の課題

- ・ボランティア・指導者の高齢化が進んでおり、今後も教室を続けて行く上で後継者の確保は大きな課題である。
- ・小学校高学年の子は、スポーツ少年団や塾に通いだす子ども達が増えるので、参加者の確保が難しい。

野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名 地域子ども教室	
野洲学区わくわく子どもクラブ	
年間開催日数	63日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	13.3人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から6年生16名参加
- ②わくわく絵手紙は、小学生1年生から5年生12名参加
- ③わくわく親子クッキングは、小学生1年生とその保護者16名参加
- ④わくわく日本舞踊は、小学生1年生から6年生7名参加
- ⑤わくわくカロム①は、小学生1年生から3年生23名参加
- ⑥わくわくカロム②は、小学生4年生から6年生16名参加
- ⑦わくわく茶道①は、小学生1年生から2年生13名参加
- ⑧わくわく茶道②は、小学生3年生から6年生17名参加

■ 特徴的な活動内容

・子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。

- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！をテーマ
- ②絵を描くには、ものの形をしっかりと見なくてはね。自然観察もだいじですね。
絵手紙をとけようかな！
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識
料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運び方のけいこ！
美しい体の動かし方が、身についたら最高ですね！
- ⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになろう！
自分専用のストライカづくりの楽しみもある
- ⑥おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを！日本の四季を感じて！
和菓子作りの体験

■ 実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図る。
わくわくカロムは指導者、サポーターとして、学童保育所の先生にお願いしている。
安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

■ 事業の成果

同学年のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年齢との交流ができた。

■ 事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題



【わくわく日本舞踊】



【わくわくカロム②】

■ 野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	三上楽しいクラブ活動
年間開催日数	51日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	11人
開始年度	平成14年度

■ 活動の概要

【三上楽しいクラブ活動】

- ◆「生け花」・・・月1回 年8回（第1土曜日 9:00～10:30）
- ◆「茶道」・・・月1回 年11回（第4土曜日 10:00～12:00）
- ◆「クッキング」・・・月1回 年11回（第3土曜日 9:30～12:30）
- ◆「将棋」・・・月2回 年21回（第2・4土曜日 9:00～11:00）

■ 特徴的な活動内容

平成14年から「学校5日制」が始まる前年より準備をして現在も継続して毎年開催している。

土曜日・日曜日（上記以外に7クラブあります）に年間単位で、毎年クラブ活動の募集をしている。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど自主的に開催日と時間が重ならない様にして、複数のクラブに参加している。

■ 実施に当たっての工夫

- ◆クラブ数が多く地域行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしている。年2回（5月・10月）配布
- ◆コミセンみかみの「悠紀まつり」にて発表（茶道）・展示（生け花）ができるようにプログラムを組んでいただいている。
- ◆年度末、他館のクラブとの交流戦を続けている。（将棋）
- ◆「クッキング」は、縦割り班として異学年の班でサポーターさん4名でご指導いただいている。

■ 事業の成果

コミセンみかみの「悠紀まつり」では、「生け花」・「茶道」の展示・発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られ、成果として地域のみなさんに喜んでいただいた。「将棋」では、毎年他館のクラブとの交流戦が1年間の目標になっている。

「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られサポーターさん・保護者間同士の交流が活動を通じで感じられた。

■ 事業実施上の課題

- ◆サポーターさんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法など。
- ◆スポーツ少年団等の参加で4～6年生の加入が少ない。
- ◆開催日・時間等が重ならない様になっているが、サポーターさんの都合等の変更で難しい。
- ◆居場所づくりになるような活動内容の種類・展開が必要かと思う。



【「茶道クラブ」悠紀まつりの呈茶の練習】



【「将棋クラブ」指導者が見守っています】

■ 野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
祇王子どもクラブ	
年間開催日数	51日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

- ・よさこい妓王は、おどりを通して、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
- ・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で男女を問わず料理ができる力や、主食、副食をバランスよく食べる事ができるように。また「食べ物を選ぶ力」「食べる量」等食育を考え健康な体作りを目的に実施。早寝、早起き、朝ご飯の大切さを指導。

■ 特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。

■ 事業の成果

- ・一人ひとりに声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
- ・参加する子ども同士や親同士も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。

■ 事業実施上の課題

- ・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。(よさこい妓王)
- ・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。スポーツ少年団や、塾等の習いごとで忙しくしている子どもの参加は難しい。参加者は、小学校低学年の子どもが多い。



【 クッキング教室 】



【 よさこい妓王 】

■ 野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	篠原地域子ども教室
年間開催日数	85日

コーディネーター数	3人
子どもの平均参加人数	15人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

演奏練習・しのっこジュニアオーケストラ、さつまいも教室、子ども料理教室、科学実験など。子ども達が興味を持ち、いろんなことを体験させる。

■ 特徴的な活動内容

演奏練習は、毎週1～2回の練習。さつまいも教室は、畑づくりから草引き・収穫・料理までを一貫して。料理教室は、楽しく作って美味しくいただくまでを体験。科学実験は、プランクトンを採集して顕微鏡で観察した。

■ 実施に当たっての工夫

さつまいも教室では、昨年の失敗を繰り返さないように、地域の方々に協力を得て畑づくりから丁寧に取り組んだ。

■ 事業の成果

どの教室も人気であり、楽しい教室となっている。特に料理教室では、次のレシピを希望したり、今度も参加したいとの声があったりで指導者はとてもやりがいを感じている。

■ 事業実施上の課題

指導者の確保。指導者が限られてくる。マンネリ化。

■ その他

しのっこジュニアオーケストラは、第9期生として17名が参加、週2回の練習のほか 地域の敬老会や、学区運動会の演奏に行くこともある。

今後もマンネリ化していてもどこかに新鮮味のある教室を続けていきたい。



【料理教室】



【さつまいも収穫】

■ 野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	北野っ子フレンドリークラブ
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	26人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した土曜教育推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成27年度実施の科目と回数は次のとおりである。

- ・グラウンドゴルフ：2回、絵画：1回、昔遊び：1回、オセロ：3回、囲碁：2回、将棋：3回、料理：4回
- ・お菓子作り：2回、工作：1回、パソコン：4回

■ 特徴的な活動内容

参加者は固定ではなく、各事業実施日毎の自由参加（但し、要予約）としている。
地元、老人クラブの方々による手作りの遊び道具（竹馬、竹とんぼ、パカパカ等）を使って昔の遊びの体験ができる。

■ 実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮している。

■ 事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもって、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。

■ 事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。

■ その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考えている。



【 6月27日 絵画教室 】



【 7月19日 昔遊び教室 】

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

■ 野洲市	
■ 活動名	中主地域子ども教室 中里学区
年間開催日数	20日（各10日）

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	18年度（茶道） 24年度（手芸）

■ 活動の概要

茶道クラブ：月1回、裏千家の作法を学ぶ

手芸クラブ：月1回、糸の止め方など初歩から学び、刺しゅう等を体験

■ 特徴的な活動内容

茶道クラブは継続的に行っているため、お手前や作法など、細かいところまで習うことができる。

手芸クラブは先生が一人ひとりに丁寧に対応している。また、子どもの個人の能力に合わせて、作る作品を変えている。

■ 実施に当たっての工夫

茶道クラブ：子ども達に12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるよう工夫している。

手芸クラブ：子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 事業の成果

クラブ活動を通じて、在籍年数が長い子どもが、まだ初めて日の浅い子どもに教えてあげるなど、学年を越えたふれあいなどが生まれつつあり、技能習得以外にも大事な体験をしていると感じることがある。

■ 事業実施上の課題

子ども達の習熟度にバラツキがあるので、教えるのが難しい事と集中力を持続させる事。



【 手芸クラブ 】



【 茶道クラブ 】

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

■ 野洲市	
■ 活動名	野洲市地域子ども教室 兵主学区
年間開催日数	33日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	30人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に次のような教室を開催している。

- ・華道クラブ
- ・茶道クラブ
- ・おやつ作り教室
- ・陶芸教室
- ・けん玉教室
- ・夏休みクッキング教室

■ 特徴的な活動内容

- ・小学1年～6年生までが1年間を通して毎回違う内容の教室を体験する。
- ・毎回新たな体験ができるので、子ども達も非常に楽しみにしている。
- ・「春を食べようの会」では毎年4月に野山に出かけ、散策しながら指導者のもと食べられる野草を採取し、館に持ち帰った後、野草を天ぷらや味噌汁などに調理して春を味わっている。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちが楽しく安全に遊べるように配慮している。

■ 事業の成果

- ・異学年の子どもたちが遊ぶことで、互いを思いやり助け合う精神が生まれ、年度の終わりには子どもたちの成長がみられる。
- ・学校でも家庭でもない環境で、子どもたちはのびのびと活動しているように思う。

■ 事業実施上の課題

好評を得ている教室はすぐに募集定員に達するが、スタッフが限られているため、館外に出かける事業は40人程度が限界である。また、地域的にボランティアの方が少ない。



【クッキング教室】



【春を食べよう会】

■ 湖南省における放課後子ども教室の取組

■ めざす姿

湖南省では、子どもたちが育っている環境や教育の大きな流れから、これからの社会を支える人材である子どもたちには、目の前にある課題から逃げることなく、周りの仲間と相談しながら、力を合わせ困難を切り拓いていける人間を育てることを目指している。そのため、基礎的な力をしっかりと身につける「学力保障」と、「地域との協働による子育て」を基本方針として、子どもたちをきめ細かに守り育む教育を推進している。

そこで、本市の放課後子ども教室事業においては、これまでの取組をベースにしながら、中学校の生徒の進路を実現させるための「学力保障」の取組を重点に行っている。放課後や夜間に学校や地域の施設等で、地域の大人、退職教職員、先輩の高校生や大学生の方々が関わり、学力的に支援が必要な生徒一人一人に寄り添ってサポートいただき、一緒に学ぶ仲間とともに学ぶ意欲を高めながら「学力の底上げ」を図っていききたい。

■ 本年度の活動

実施校	開催日数	活動場所	主な内容
石部中学校	23 日	校区内「青少年の家」	進路実現の学力補充 (夜の学習会)
甲西北中学校	13 日	甲西北中学校	学力補充(放課後学習) 英語の初歩的な学習
日枝中学校	18 日	市民学習交流センター 日枝中学校	個別学力補充(夜の学習会) 美文字教室

■ 本年度の成果

- ・ 3校ともモデル事業「放課後子ども教室事業」としての開始は本年度からであるが、このモデル事業を受けていない昨年、2年前、古くは17年前から自主的に行ってきた経緯がある。
- ・ 生徒が週1回決まった時間に集まりやすい校区の公共施設や、ボランティア組織の施設で継続的に学習を行うことで、生徒自身の学習に対する習慣づくりにつながっている。生徒にとっては、年齢が近く親しみやすい地域の高校生や大学生に、あるいは地元で支援してくださる方、地元退職教職員の大人の方に、参加生徒の苦手な学習を一つでも減らせるよう、一人一人に寄り添ったサポートをしていただいている。そのため、生徒自らが学習への意欲を高め、前向きな気持ちで取り組める場面も増えてきた。

■ 今後の課題

- ・ サポートをいただく地域の方と、参加する中学生の時間を合わせていくことが難しい。この取組の魅力や成果を伝え、声かけを進めていき、サポートいただく地域の方々、高校生や大学生を確保していきたい。
- ・ この事業が進路保障、学力向上の取組であり、学力の底上げとなっていることをいっそう周知していく必要がある。



【先輩の高校生によるサポート】

■ その他 湖南省 HP <http://www.city.konan.shiga.jp/>

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南省教育』

「しんどい子どもたち」の進路実現に向けた学校と地域の協働

■ 湖南市	
■ 活動名	石部中 中3生夜の学習会
年間開催日数	23日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3～5人
開始年度	平成11年度

■ 活動の概要

毎年10月から卒業時までの半年間、学力的にはもちろん、家庭環境的にもしんどく、加えて中学校卒業後も地域の方に関わっていただくことが望ましい生徒（いわゆる「荒れ」に向かう生徒）を対象にした夜の学習会。学校は主に管理職や3年部所属の教員が中心となり、地域の「青少年指導支援の会」（ボランティア組織で以下「支援の会」との協働で実施している。学習は1対1を基本とし、場合によっては地元大学生なども関わってくれている。この活動をスタートさせたのが平成11年。以後17年間継続されている。

■ 特徴的な活動内容

学習の場所は「青少年の家」という、支援の会が活動拠点としている建物で、生徒たちは毎週1回（今年度は水曜日）、午後6時過ぎに集まり8時まで学習。学習指導は中学校の教員や地元退職教員、大学生などが担当し、支援の会の女性メンバーには交替で生徒を迎え、学習を見守り、見送る役目を担っていただいている。こうして、中学校時代に地域の人との関わりをつくっておくと、それ以後の自立に向けての支援につなげていくことが期待できる。

■ 実施に当たっての工夫

毎年、学校の学年、担任団が生徒を抽出し、学習開始前には、生徒本人、保護者の思いを把握することで、家庭と学校、ボランティア組織の共通理解を図っている。また、学校では全体会議の折に学習の様子を伝えることで、この学習のねらいの浸透を図っている。大学生への誘いは、教育実習生や卒業生などに声をかけ、関わる大人自身が成長していくことも大切にしながら、人から人へのつながりで確保している。

■ 事業の成果

毎年人数こそ少ない（そうすることで1対1の学習が可能）ものの、中学校を卒業してからも関わりを保てることができ、生徒の自立に向けた支援の可能性が広がってくる。今年度で17年継続してきた成果として、「夜の学習会メンバー」が中心となった若者グループ「スィーパー」が結成され、これまで13年間、月1回の地元における清掃活動も自主的に行うなど、地域貢献活動にも取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題

最も大きなハードルは、学校と地域の方（支援の会）のねらいの共有である。この活動は生半可な気持ちでは、かえって生徒にとってはマイナスとなり、生徒の自立につながっていかない。これまで17年もの間、年度によっては、この両者の共有が決して一致していたわけではない。その時々を危機を何とか乗り越えながら、ここまで続けていただいている。今後もできる限り継続していきたい取組である。

■ その他

- ・今年度より「放課後教室」の活動として申請して、コーディネーターを支援の会から2名配置。役割は週に1回の学習会の当番（場合によっては生徒の送迎も担当）を決めたり、消耗品関連の購入計画等の中心となって活動している。また、学習会は教科の学習に加えて、参加者の仲間づくり、生徒と関わる大人の関係づくりにも心をくわいており、その企画等も役目の範囲である。

- ・右写真は「青少年の家」と称している建物で、支援の会の代表が所有される土地に建てていただいたプレハブを使用させていただいている。この建物は、月に一度の支援の会の例会をはじめ、毎週の「学習会」等に使用。



【青少年の家】

- ・毎回の学習スケジュールの基本は40分間の教科学習が2コマで、間に10分の休憩を入れ、教科の学習を中心としながら、生徒たちと関わる大人とのコミュニケーションを大事にし、生徒たちにとって居心地のよい空間となるよう心がけている。

- ・ただ、生徒に関わる大人の大きな分担としては、主に学習内容は学校関係者が担当し、支援の会メンバーは母親役、家族役としての受容の気持ちで接している。この学習会の大きな特徴としては、生徒たちが普段学校では見せない姿を見せてくれる、隠された生徒の良さを知ることができるなど、結果的には生徒の自尊感情を育んでいけることである。



【週に1回の勉強会】

Let's Enjoy English

■ 湖南省	
■ 活動名	甲西北中放課後学習教室
年間開催日数	13日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

月曜日の隔週で放課後に約1時間の時間を確保し、「英語に親しむ」というねらいで、英語が苦手な生徒が気軽に英語に慣れ親しむことからスタートさせた。教材についても授業で使っている教科書からはなれて、「学習」や「勉強」と言ったスタイルにこだわらない形でこの事業を展開させた。

■ 特徴的な活動内容

発展的な学習よりも英語の初歩的な内容を中心に学習を進める。

■ 実施に当たっての工夫

参加者が増えるように学級担任や部活動顧問からの呼びかけや個人的な勧誘も併せて実施した。また、生徒の通行量が一番多い教室で実施することも考慮し、目に見えるところにポスターを掲示するなど一人でも多くの参加生徒が集まるよう工夫を凝らした。

■ 事業の成果

普通の授業と違い、少人数で学習するためきめ細やかな指導をしてもらえた。成果を求めるまでには至っていないところは多々あるが、息の長い継続的な取り組みをしていくことで、この事業の成果と言える活動となるよう努力し続けていきたい。

■ 事業実施上の課題

月曜日は部活動停止日に設定されていることもあり、放課後になると帰宅を急ぐ生徒が大半なため、それにつられるかのように生徒の脚はそちらへ向いてしまう。そのことが、この事業への参加率低下にも繋がっているように感じる。そういったことも含め広く周知を図る目的で全校集会時に呼びかけることはもちろんのこと、設定曜日の変更も視野に入れながら検討していきたい。

■ その他



【 放課後学習の様子です。 】

■ 地域とつながり学ぶ力を育てる

■ 湖南省	
■ 活動名	日枝中学校放課後事業
年間開催日数	18日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	15人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

1. 地域の方（高校生・大学生・一般）に協力頂き、生徒の個別学力を補充する機会を設ける。（夜の学習会）
2. 中学生が小学生の学習活動サポートを行うことで、自分自身の学ぶ力を向上させる。（美文字教室）

■ 特徴的な活動内容

1. 夜の学習会・・・学習支援が必要な生徒への個別の学力補充を実施。
地域の高校生、大学生を中心に声掛けを行い協力要請。参加サポーターは平均4名。
参加生徒の学習の苦手を減らせるよう、一人一人に寄り添い丁寧な学習支援をして頂いた。
10月～2月の期間で17回実施。地域の市民学習交流センターを活用。活動時間は19時～21時。
2. 美文字教室・・・校区内の2校の小学校と連携し、中学生が小学生をサポートする書初めの練習会を実施。
当日は甲西高等学校の書道部の方に来校頂き、日枝中学校吹奏楽部との共演で書道パフォーマンスを行いその後、参加小学生と中学生がペアになって書初めの練習を行った。
12月に開催。日枝中学校体育館を使用。活動時間は14時～16時。

■ 実施に当たっての工夫

1. 夜の学習会については参加生徒が集まりやすいよう、地域の市民学習交流センターを活用。
生徒たちにとって年齢が近く親しみやすい高校生、大学生にサポートに来て頂くことで学習への意欲と前向きな気持ちを持って取り組んでもらえるよう配慮した。
2. 美文字教室については中学生の参加呼びかけを行う際、昨年参加者や書道経験者の生徒に直接声掛けを行い、校内に参加募集ポスターを掲示するなどした。書道パフォーマンスについては、参加小学生や中学生に馴染みのある曲を選曲し、より興味を持って書道に取り組めるよう工夫した。

■ 事業の成果

夜の学習会については、決まった時間に週1回の継続的な活動を行うことで学習に対する習慣づくりにつながったと感じた。地域の力を借りて生徒が集まり一緒に学ぶことで、自宅一人で手を出しづらい苦手な学習にも取り組むことが出来た。美文字教室については、参加した中学生が小学生の活動サポートを行い教える側に立つことで、いろいろな気づきが生まれた。小・中・高と連携した活動を行うことで、子ども達は自分の将来の姿や活動風景を想像することが出来たのではないかと感じた。又、数名ではあるが一昨年から活動の継続により自ら参加希望を申し出てくれる生徒や、こちらからの参加依頼に喜んで応えてくれる生徒も出てきたことは大きな成果だと感じる。参加小学生から感謝のはがきを頂いたことも励みにつながった。

■ 事業実施上の課題

どちらの事業に関しても、サポートに回る地域の方や参加中学生の時間のマッチングが難しいと感じた。それぞれの学校生活や部活動、塾などの時間的な制約の中でどのように活動に参加してもらうか。又、参加呼びかけについてもチラシを作成して配るだけでは参加者が集まらないので、どの様に活動の魅力や成果を伝え、声かけをすることで参加者の開拓を進めていくかを試行錯誤しなければならなかったと感じた。



【夜の学習会の様子】



【美文字教室の様子】

■ 米原市における放課後子ども教室の取組

■めざす姿

放課後や週末に学校施設やその他公共施設等を利用して、地域に応じた子どもたちの安全・安心な場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学びと遊びの体験、異年齢交流の機会を提供し、地域で子どもを守り育てる環境づくりをめざす。

■本年度の活動

- ・米原市子ども・子育て審議会において、放課後キッズの活動を報告し、今後の活動などについて、議論を行った。

実施回数 2回

委員：15人

(有識者、福祉・教育に関わる機関や団体の代表者、子どもの保護者、公募市民など)



【米原市子ども・子育て審議会】

■本年度の成果

・ボランティアで協力していただける地域の方が増え、幅広い体験活動や交流の場を子どもたちに提供することができた。また、活動を通して子どもたちの成長を支援することができた。

■今後の課題

事務局と実施団体との情報交換の場を設け連携を密にしていく。

■ 下学年と上学年に分かれて、季節にあったいろんな活動を行います。親子での参加可！

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in 310
年間開催日数	29日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	8人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

4月から翌年3月にかけて、下学年と上学年に分かれて活動を行った。

活動の日程は、土曜日の午前を基本に約1時間30分とした。

■ 特徴的な活動内容

バドミントン、卓球、カヌー、乗馬、農園（さつま芋の植付と収穫）、ダンス、スケート、ミニしめ縄づくり、書初め、スキー

■ 実施に当たっての工夫

小学1年生と6年生では、運動能力等の格差が大きいため、下学年（1年生から3年生）と上学年（4年生から6年生）に分けて活動した。

また、スキーは安全管理のために、午後1時から4時までの活動とし、スキー客が少なくなる時間帯での活動とした。

■ 事業の成果

土曜日に活動したので、カヌーや乗馬、農園、スケート、ミニしめ縄づくり、スキーなどは、親子で参加する家族もあり、安全管理面でサポートしていただきたきながら、親子の触れ合いも深めていただけた。

■ 事業実施上の課題

カヌーやスケート、スキーは、危険性が高く、安全管理面で不安を感じた。特にスキーは、まったくの初心者の場合はマンツーマン指導が必要となり、指導者が足りず困った。

■ その他

山東地域の柏原小、山東小、大原小の子どもたちを対象としたが、地域外の子どもも数名参加した。



【農園（さつま芋苗の植付）】



【ミニしめ縄づくり】

■ 多様な体験、深める交流 いぶきっ子の豊かな心の育成を目指して

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in ジョイ
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	30 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- 第1回 (5/27) いろいろなスポーツを楽しもう
 第2回 (6/24) 古代模様のバッグを作ろう
 第3回 (7/22) 日本の伝統文化（茶道）を楽しもう・・・お点前と客人の双方を体験した。
 第4回 (9/26) 名和昆虫博物館（岐阜）でいろいろな昆虫の生態を学ぼう・・・借り上げバスで体験学習に出かけた。
 第5回 (11/14) 体をリズムカルに動かそう・・・米原市スポーツコーディネーターによりユニークな指導をいただいた。
 第6回 (11/ 4) あまんぼう作りに挑戦しよう・・・一人4連（8個）の干し柿を作った。
 第7回 (1/17) 餅つき&かるた・百人一首大会・・・米原市こども未来部子育て支援課・米原市青少年育成市民会議伊吹支部・（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団との共催。
 第8回 (2/24) お楽しみ！お菓子作り

■ 特徴的な活動内容

【日本の伝統文化（茶道）を楽しもう！】

地元の茶道サークルの方々にお世話になり、お茶を習う心構え（靴下を履き替える）から始まって、座り方などの立ち居振る舞いなど、ひとつひとつ丁寧に教えていただいた。その後、全員でビデオ鑑賞をし、二班に分かれてお茶を点てる組とお茶をいただく組に分かれお茶の作法を体験した。

子どもたちは初めての経験に緊張気味の子もいたが習おうとする気持ちがよく伝わってきた。

今回習ったことが今後の子どもたちの日常生活に良い影響を与え、日々の心豊かな生活につながればと思う。

【あまんぼう作りに挑戦しよう！】

伊吹特産の“平種無柿（ひらたねなしがき）”の柿の木1本を柿農家より購入し、柿を収穫するところから体験した。

柿を吊るすので、柿の実に“小枝”を残しながら収穫しなければならず、少し“技”が必要だった。

その後会館の調理室でピーラーで柿の皮をむき、むき終えた柿をシュロの葉で結ぶ作業は子どもたちにとって大変貴重な経験になったと思われる。

■ 実施に当たっての工夫

①活動内容は、スポーツ、もの作り、見学活動など偏りのないように計画した。

また、第7回（1/17）餅つき&かるた・百人一首大会においては、米原市こども未来部子育て支援課、米原市青少年育成市民会議伊吹支部との共催で実施した。

②グループ活動の際は異学年混合とし、高学年児童に役割を持たせ、リーダー意識を育てるようにした。

③安全確保 ・学校から帰宅後、必ず保護者による送迎とし、放課後児童クラブ参加児童はクラブ指導員の引率とした。
 ・放課後キッズスタッフ7人によるサポートを行い、より子どもたちの安全を確保した。

④緊急対応 ・緊急連絡先を児童名札裏面に記載し、緊急連絡に備え、また館外での活動には救急車を搬送した。

■ 事業の成果

①スポーツ、調理、もの作りなど様々な活動を体験させることができた。

②高学年児童にリーダーとしての自覚の芽生えが感じられた。

③2小学校合同での活動により学校間の交流が図れ、また、グループ活動により異学年交流も進んだ。

■ 事業実施上の課題

①子どもの8割が低学年のため、活動内容の工夫が必要と思われる。

②教育活動推進員（キッズスタッフ）の年齢を考慮すると今後は新規の推進員が必要になると思われる。



【日本の伝統文化（茶道）を楽しもう！】



【あまんぼう作りに挑戦しよう！】

■ 安心できるよ、発見しよう、体験しよう。子どもの新たな居場所づくり

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in おうみ
年間開催日数	5 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	36 人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

子どもたちにとって安全で快適に学校の休日を利用しながら、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、ボランティアの皆さんにご協力をいただき、下記の内容で異世代交流や体験活動を行っている。この事業を通じて、地域のボランティアの特技や技術、生活の知恵を活かし、地域の子どもの健やかな成長を見守り、青少年の健全育成と子育て支援事業に取り組んでいる。今年度は年間5回の開催で、普段、学校では体験できない農業体験・自然体験・物作り体験を中心とした内容で実施した。

■ 特徴的な活動内容

地域にある田んぼを活用して、ボランティア団体「どろんこの会」とどろんこ農園を設置し、年間を通して稲作体験ができる環境を整えている。また、公民館に設置しているピザ窯を活用して、窯で焼いたピザ作り体験を行ったり、書道家による自由な書をテーマにしたワークショップを行うなど他には体験活動を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちの健全育成に取り組んでおられるボランティア団体「どろんこの会」や里山の保全を目的として様々な活動をしている団体「やまんばの森」などの熱心に活動しておられる地域の団体に協力して頂くことで、地域の子子ども達に農業を中心としたさまざまな体験活動を提供し、子ども達に地域の方々から長年培った経験と知恵を継承している。また、書道家などの作家の方に協力をして頂き、幅広いジャンルの様々な活動を体験する機会を子ども達に提供している。

■ 事業の成果

ボランティア団体「どろんこの会」に継続的に協力して頂くことで、子ども達は顔の知った大人の人に囲まれながら、安心して活動に取り組むことができた。また、豊富な体験活動を実施することで、子ども達の感性を豊かにし、子どもの充実した休日を提供することができた。

■ 事業実施上の課題

長年、事業を実施しているため、活動内容がマンネリ化してしまう部分が少なからずある。今年度は実践したことは、これまでの体験内容をいくつか組み合わせることで、これまでにない体験を提供することを心がけた。

■ その他

当事業では地域資源を最大限に活かし、公民館施設をフル活用することで他にはない活動内容を提供している。地域に居住する保護者や子ども達が自分達の住む地域のことを知ることで、自分達の住む地域の魅力に気付いてほしいとの思いを持ちながら、活動をすすめている。今後も活動を通して、地域の子育てに貢献し、子育てのまち「米原市」を実現していきたい。



【どろんこ農園にて田植え体験】



【どろんこ収穫祭】

■ 米原市放課後安心プラン「放課後キッズ in まいはら」

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in まいはら
年間開催日数	7 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	20.4 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

米原市では、子ども達にとって安全で快適な放課後の居場所づくりの推進に取り組まれている。そこで米原市米原地域では、総合型地域スポーツクラブ「MOS スポーツクラブ」が、米原市の『放課後安心プラン』の一環として、「放課後キッズ in まいはら」に取り組んでいる。

「放課後キッズ in まいはら」では、子ども達が安全な環境で思う存分遊べる場所、ゆったりと安心して過ごせる居場所として放課後や休日に公共施設等を活用し、いろいろな体験や交流活動が行えるようにしている。年度初めに参加者を募り、6月から12月まで毎月1回の活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

総合型地域スポーツクラブが中心となり活動しているため、バドミントンや卓球、ミニテニスなどのスポーツ体験が中心となっている。指導にはスポーツクラブの会員の方にもご協力頂いている。

米原市では、カヌー体験を通じて米原の豊かな自然を体験してもらいたいと、カヌー・カヤックを導入されているため、生涯学習課の協力を受け、放課後キッズ in まいはらでもカヌー体験を実施している。また、同市伊吹地域ではホッケー活動が盛んであるため、ホッケーの簡易版であるユニホック体験を導入した。

■ 実施に当たっての工夫

遠足や野外活動以外の活動日は、2種目以上のスポーツ体験の準備をし、その場でグループ分けを行って時間帯によって違う体験をすることで、子ども達が飽きないように工夫している。

また、活動内容に直接関係はありませんが、活動ごとの受付では必ず、保護者ではなく参加者自身に名前を言って頂いている。学校以外の場でしっかりと発言できるような機会を作ることを目指しているためである。最終回に「参加者」「保護者」それぞれに向けたアンケートを配布し、現状への意見や来年度に関することを問い、それぞれの立場の意見や希望を集約し、来年度の活動に繋げていけるよう努力している。

■ 事業の成果

体験する機会がなかなかないカヌーやユニホック体験、意外に体験する機会の少ない卓球などの活動の場を提供することができた。

学校や学年が異なっている参加者が、それらをを超えて協力して楽しんで頂けたように思う。また、ユニホック体験の練習試合では、子ども達が自主的に作戦を立てて実践するなど主体性をもって活動する姿を確認できた。

■ 事業実施上の課題

学校行事との兼ね合い。行事と重複しないように土曜日に設定しているが、土曜参観や運動会、愛校作業などと重複した開催日があった。担当している米原地域に小学校は2つあるが、両校との話し合いが必要だと思われる。

■ その他

米原市は4町が合併した自治体であるため、同じ市でも居住していない地域の情報は意外と耳に入らない。地域ではホッケーが盛んでも米原地域では盛んではないということも往々としてあるため、同じ市であることを活かし、各地域の活動に目を向け、積極的に取り入れていきたいと思う。



【 ユニホック体験 】



【 リバーボート体験 】

放課後児童クラブの現状

平成27年5月1日現在

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	223 箇所	児童数	82,069 人
小学校1～3年生の総数	41,121 人	*4～6年	40,948 人

(2) 放課後児童クラブの概況

補助対象別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
	121	135	42	298

(3) 放課後児童クラブの状況

調査項目	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
実 施 場 所 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数				
児童館・児童センター	1	2	5	8
学校の余裕教室	55	15	1	71
学校敷地内専用施設	35	50	4	89
公有地専用施設	26	49	1	76
民有地専用施設	2	1	11	14
民家・アパート	0	2	2	4
公的施設利用	1	9	4	14
団地集会室	0	0	0	0
保育所	0	0	6	6
幼稚園	1	6	0	7
認定こども園	0	0	0	0
空き店舗	0	0	5	5
その他	0	1	3	4
合計	121	135	42	298
登 録 児 童 数 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数				
9人以下	1	2	3	6
10人～19人	4	10	5	19
20人～35人	50	19	14	83
36人～70人	59	83	15	157
71人以上	7	21	5	33
合計	121	135	42	298
障 害 児 受 入 数 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数				
受入なし	16	21	19	56
1人	20	32	9	61
2人	32	29	8	69
3人	25	15	2	42
4人以上	28	38	4	70
合計	121	135	42	298
平日の終了時刻別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数				
17:31～18:00	27	1	1	29
18:01～18:30	56	59	9	124
18:31～19:00	38	74	24	136
19:01～20:00	0	1	8	9
20:01～21:00	0	0	0	0
21:01～22:00	0	0	0	0
合計	121	135	42	298
休日の開館状況別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数				
土曜日（毎週実施以外）	121 (4)	120 (53)	42 (2)	283 (59)
日曜・祝日	0	15	14	29
長期休暇	121	114	42	277
学 年 別 児 童 数				
小学校1年生（障害児）	1,565 (78)	2,019 (76)	489 (10)	4,073 (164)
小学校2年生（障害児）	1,429 (90)	1,707 (82)	419 (12)	3,555 (184)
小学校3年生（障害児）	1,095 (65)	1,407 (77)	364 (7)	2,866 (149)
小学校4年生（障害児）	486 (41)	842 (58)	245 (8)	1,573 (107)
小学校5年生（障害児）	279 (30)	465 (36)	113 (7)	857 (73)
小学校6年生（障害児）	104 (16)	264 (20)	78 (4)	446 (40)
その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計（障害児）	4,958 (320)	6,704 (349)	1,708 (48)	13,370 (717)
学年別利用（登録） できなかった児童数				
小学校1年生（障害児）	8 (0)	11 (0)	0 (0)	19 (0)
小学校2年生（障害児）	6 (0)	4 (0)	1 (0)	11 (0)
小学校3年生（障害児）	4 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)
小学校4年生（障害児）	66 (0)	15 (0)	2 (0)	83 (0)
小学校5年生（障害児）	10 (0)	14 (0)	6 (0)	30 (0)
小学校6年生（障害児）	1 (0)	7 (0)	0 (0)	8 (0)
その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計（障害児）	95 (0)	51 (0)	10 (0)	156 (0)

注：（ ）内の数は、再掲である。

(4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合 計 B
		市（特別区）	町	村	
19	100 %	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移

